

豊後水道下のフィリピン海プレート内における  $1/Q$  値推定の試みEstimation of attenuation factor ( $1/Q$ ) in Philippine Sea plate beneath Bungo-Suido

# 松本 聡 [1]; パリツスタ リツキタ [2]; 植平 賢司 [1]; 清水 洋 [1]

# Satoshi Matsumoto[1]; Rizkita Parithusta[2]; Kenji Uehira[1]; Hiroshi Shimizu[1]

[1] 九大・地震火山センター; [2] 九大・理

[1] SEVO, Kyushu Univ.; [2] Grad, Sch. Sci., Kyushu Univ.

豊後水道下のフィリピン海プレートではこれまで非地震性すべりや低周波微動が発生していることが知られている。この部分の詳細な地震波減衰構造 ( $1/Q$ ) はこれらの発生メカニズムやプレート内の状態を知る上で大変重要である。そこで、本研究では Rizkita and Matsumoto (本大会) によって用いられた、コーダ規格化法によってこの地域の  $1/Q$  を求めた。この方法は Aki(1980) によるコーダ規格化法を隣接するイベントペアに適用することによってイベント間の  $1/Q$  値を求めるものである。特に、Rizkita and Matsumoto は多くの地震のコーダエネルギーからまず相対的震源スペクトルをもとめ、これらから、直達S波のスペクトル比に含まれる震源スペクトルの寄与をのぞく方法を提案した。ここではこれを用いて  $1/Q$  を推定した。得られた結果は深度が深くなると  $1/Q$  値が大きくなる結果が得られた。これらはプレート間カップリングとも関連する可能性があり、興味深い。また、周波数依存性は地殻内で得られているものよりも弱いことがわかった。